

生物多様性影響評価検討会での検討の結果

名称：除草剤グリホサート及びグルホシネート耐性並びに稔性回復性セイヨウナタネ
(改変 *cp4 epsps*, 改変 *bar*, *barstar*, *Brassica napus* L.) (MON88302×RF3,
OECD UI: MON-88302-9×ACS-BN003-6)
第一種使用等の内容：食用又は飼料用に供するための使用、栽培、加工、保管、運搬
及び廃棄並びにこれらに付随する行為
申請者：日本モンサント株式会社

(1) 生物多様性影響評価の結果について

本スタック系統は、

- ① 改変 CP4 EPSPS 蛋白質をコードする改変 *cp4 epsps* 遺伝子が導入された除草剤グリホサート耐性セイヨウナタネ (MON88302)、
 - ② 改変 PAT 蛋白質をコードする改変 *bar* 遺伝子及び BARSTAR 蛋白質 (稔性回復を誘導) をコードする *barstar* 遺伝子が導入された除草剤グルホシネート耐性及び稔性回復性セイヨウナタネ (RF3)、
- を用いて、交雑育種法により作出されたものである。

本スタック系統に導入された遺伝子により産生される除草剤耐性蛋白質である改変 PAT 蛋白質及び改変 CP4 EPSPS 蛋白質は酵素活性を有するが、基質特異性が高く、関与する作用機作も独立していることから、宿主の他の代謝系を変化させたり、予期しない代謝物が生じたりする可能性は低いと考えられた。また、除草剤耐性蛋白質と BARSTAR 蛋白質の作用機作は独立していることから、相互に影響を及ぼすとは考え難い。

以上のことから、各親系統由来であるこれらの蛋白質が、本スタック系統の植物体内において形質間の相互作用を示す可能性は低く、親系統が有する形質を合わせ持つ以外に評価すべき形質の変化はないと考えられた。

なお、各親系統の次に掲げる評価項目については検討が既に終了*しており、当該検討の結果では、各親系統を第一種使用規程に従って使用した場合、我が国における生物多様性に影響が生ずるおそれはないとした生物多様性影響評価書の結論は妥当であると判断されている。

- (ア) 競合における優位性
- (イ) 有害物質の産生性
- (ウ) 交雑性
- (エ) その他の性質

*各親系統の検討の結果は以下より閲覧可能

- MON88302

https://ch.biodic.go.jp/bch/OpenDocDownload.do?info_id=1644&ref_no=2

- RF3

https://ch.biodic.go.jp/bch/OpenDocDownload.do?info_id=908&ref_no=2

(2) 生物多様性影響評価を踏まえた結論

以上より、本スタックシステムを第一種使用規程に従って使用した場合に、我が国における生物多様性に影響が生ずるおそれはないとした生物多様性影響評価書の結論は妥当であると判断した。